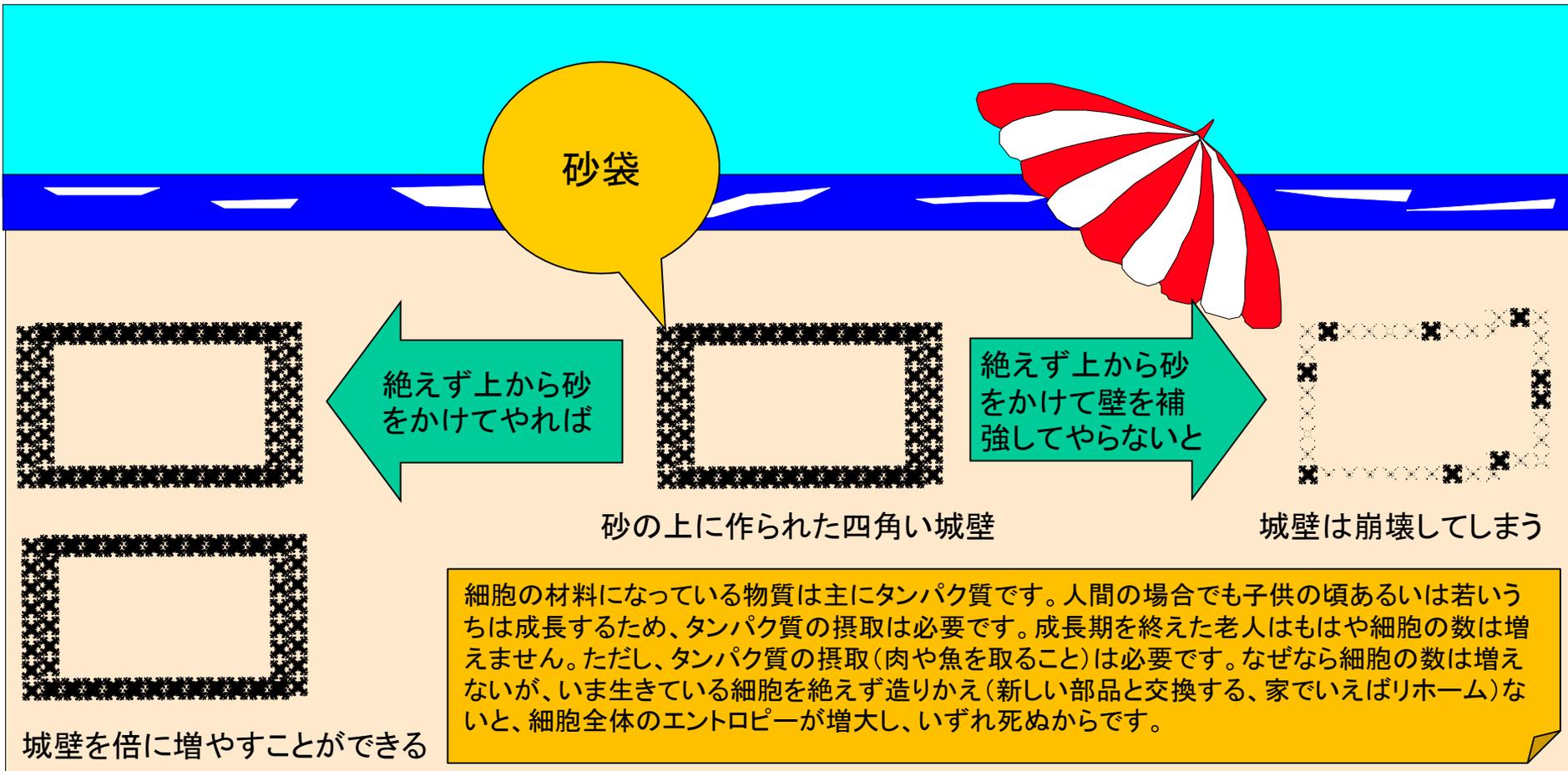


生命の悲劇

●細胞は絶えず自身の秩序を維持する(エントロピーの増大を抑える)ために食べ続ける。そしてエントロピーの大きいものをゴミとして排出する。そこでようやく自身の身体を維持できる。もしここで食物の補給が滞れば、細胞は危機に瀕し、最終的には死ぬ。

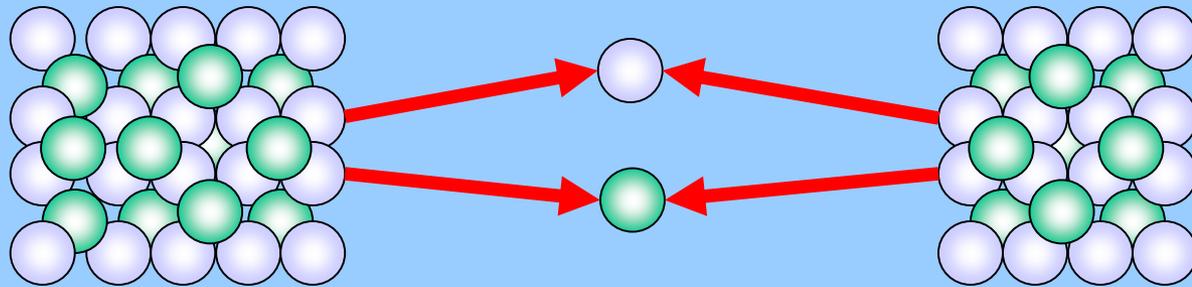
その意味で、細胞とは砂で作った城壁のようなもの。絶えず上から砂をかけてやらなければ壁は(風化や自身の重さのために)崩れ去ってしまう。もし食物が十分あれば、細胞はそれを食べて永遠に生きる。否、その場合細胞は分裂を果たす。すなわち、生物個体でいえば、生物は利益が十分得られれば、子供を増やすことができる。



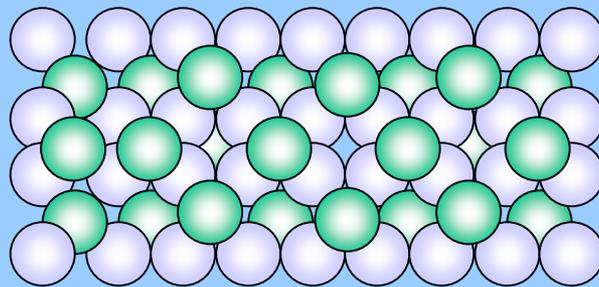
生物の形成

生物は常に食べ物を補給しなければいずれ死ぬ運命にある。この死から逃れるために、限られた食料をめぐる争いが生じる。

①物質同士の争い



互いに大きくなろうと物質を奪い合う



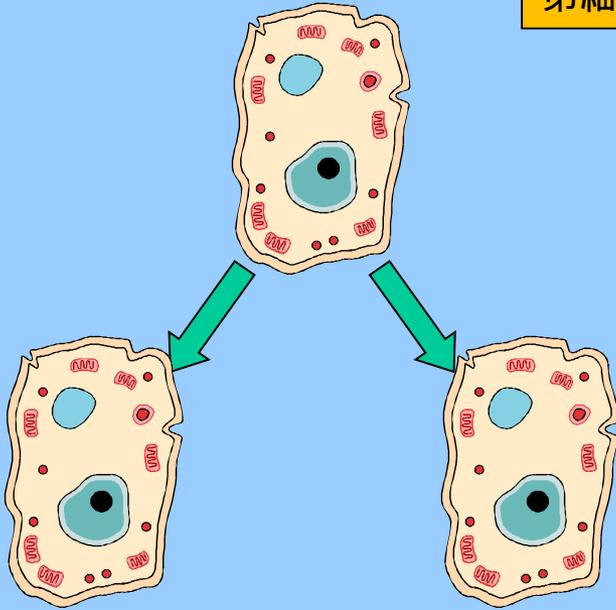
やがて一方が他方の物質(身体)を奪い自身の身体をますます巨大化させる

単なる物質は生物と違って自ら物質を摂取するわけではないが、物質間に働く力の作用(通常は電気力)により、周りの物質を集めることによって、あるいは相手の身体を奪って、自身を巨大化させる。巨大化した物質は原子同士が複雑に結合して、やがてそこから生物が誕生する。

生命の悲劇

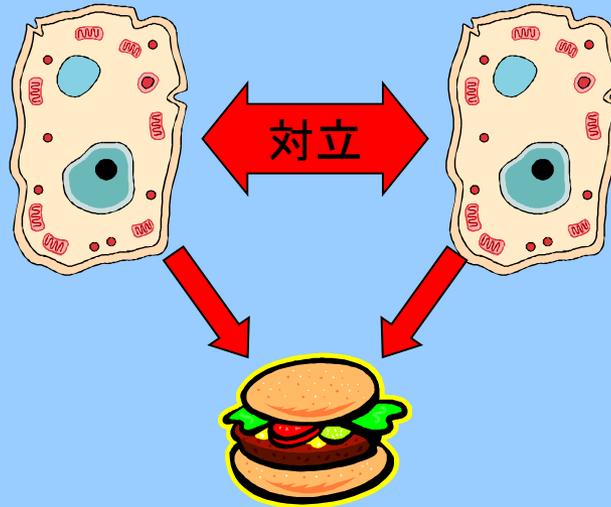
②細胞間の争い

一つの細胞から分裂によって誕生したいわば兄弟細胞でも、その直後から、利益を求めて争う。



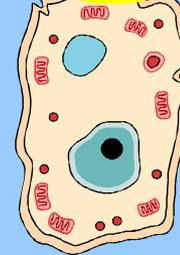
一つの細胞から分裂した兄弟細胞

分裂した直後から
敵対関係にある

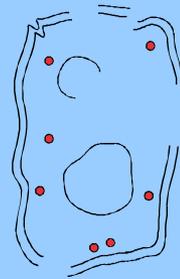


食べ物を奪い合う

食べ物が1体分しかない
と片方の細胞は死ぬことになる



生



死

争いの結果十分な食料が得られず、どちらも死滅する場合もある

すなわち生物が生存するという事は、限られた利益を求めて他と争うこと、奪い合うこと、ひいては殺し合うこと。これを「生命の悲劇」という。